

北東州知的対話（於：印メガラヤ州シロン）
堀井副大臣スピーチ
2026年2月27日（金）

御列席の皆様、

日本政府を代表して、第6回「北東州知的対話」の開催に祝意を表します。この対話は2021年に始まりましたが、回を重ねるごとに、議論の内容が充実し、参加者も増え、ここ北東部における日本の具体的な協力を結実していることを喜ばしく思います。

昨年8月のモディ首相訪日の際に確認したとおり、日本は、インド北東部の開発に対し、継続的にコミットしています。そして、1月の茂木外務大臣とジャイシャンカル外務大臣との会談でも、インド北東部と周辺地域の連結性向上を図るための「知的対話」と「アクト・イースト・フォーラム」の重要性を確認しました。

こうしたハイレベルのやり取りを踏まえ、私は、日本の北東部への3つの具体的コミットメントをお伝えすべく、短い日程ですが、ここシロンを訪問することにしました。もっとも、私自身の目で、この可能性に満ちた地を見てみたかったという好奇心もあります。

第一に、インド北東部をベンガル湾、インド洋へとつなぐ連結性への支援です。インド北東部は、東南アジアへのゲートウェイという極めて重要な地政学的位置にあり、ネパールやブータンからインド、バングラデシュ、そして東南アジアという広域の経済圏で見た場合、成長のエンジンとしての高いポテンシャルがあります。

こうした考えのもと、我が国が提唱する「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」の取組として、「ベンガル湾からインド北東部を繋ぐ産業バリューチェーン（Industrial Value Chain）」構想の実現に取り組みます。具体的には、日本が従来から実施しているハード・ソフトの連結性支援に加え、民間投資を促進します。そして、道路網や鉄道網整備を始めとするインフラ開発で日印が協力することを通じて、インド北東部を海に繋ぎ、地域全体としての発展を促進します。

正にここ北東部は、モディ首相が推進する「アクト・イースト」と、我が国が重視するFOIPの連携の実践の場であると思います。

第二に、半導体やクリーンエネルギーといった経済安全保障分野での民間協力を政府としても支えます。ジャギロードでは半導体後工程の工場の建設が進んでいますが、生産、運搬いずれをとっても、日本企業の関与が不可欠です。昨年にはJBIC等が竹を原料にしたバイオ燃料生産に600億円の投資を決めました。インド北東部を地域の成長エンジンにしていく、そうした日印の協力をこれからも後押しします。

第三に、人的交流の促進です。いま、北東部の有能な人材に、日本の多くの自治体や企業が注目し、相次いで訪問していると聞きます。ここ北東部の人材の力を日本経済の成長や地方創生に活かすとともに、専門的技術を学んだインド人が自国に戻り、インドの発展に寄与するなど、日印間の相互補完的な人材の還流は、両国にとってウィンウィンとなるでしょう。

最後に、私の印象を申し上げます。私は、インド北東部を初めて訪問していますが、日本によく似た風景や似通った生活様式を見て、非常に親近感を覚えると同時に、日本とインド北東部との関係深化にはまだまだポテンシャルがあると感じました。

今回の「北東州知的対話」には、インド北東部出身の議員、日印両国の政府関係者、民間関係者、そして南西アジア各国大使等の幅広い参加を得て、北東州の連結性向上についての議論が行われております。また、今般バングラデシュにおける総選挙が実施されたタイミングでの本対話の開催は時宜を得たものであり、今回の本対話が一層の重みをもつものとなったと確信します。

本対話の開催の成功を祈念し、この場から新たな協力の種が生まれていくことを願っています。

御静聴、ありがとうございました。